

第 59 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬 (株)	ミカムロ/ミカルデイス	中外製薬 (株)	ミルセラ 他
第一三共 (株)	オルメテック/レザルタス	エーザイ (株)	パリエット
グラクソ・スミスクライン(株)	パキシル	(株) ジェイ・エム・エス	
興和創薬 (株)	リバロ	大塚製薬 (株)	ムコスタ
(株) 大塚製薬工場	エルネオパ	塩野義製薬 (株)	サインバルタ
シーメンス・ジャパン (株)	LUMINOS session	大鵬薬品工業 (株)	アロキシ
武田薬品工業 (株)	ブロプレス 他	田辺三菱製薬 (株)	タリオン
(株) ツムラ	当帰芍薬散	(株) ヤクルト本社	カンプト 他

(ABC 順)

編集委員会

編集長：並 木 温

編集委員：金 子 弘 真 佐 地 勉 杉 山 篤

周 郷 延 雄 高 橋 寛 高 橋 啓

津 熊 久 幸 瓜 田 純 久 (ABC 順)

編集後記

東邦医学会雑誌編集委員に任命され、その職務のひとつである編集後記執筆の依頼をいただいた。何か気のきいた文章を書かなければならないと意気込み、私のたどり着いたアイデアは、「東邦医学会雑誌第1巻第1号」(昭和29年11月1日発行)を繙くことであった。早速、医学部図書館に行き職員に尋ねると、すぐに一階奥の電動書庫から出してくれた。はじめに「創刊のことば」として、本学創立者である額田 晋学長の「特色ある日本医学を建設しよう」という文章が掲載されていた。「医学は変遷する」、「医学は推移する」、「どこまでも医学は進展する」をキーワードとした短い文章の中に、医学の限らない未来を予見されている。さらには、世界大戦後の日本人を勇気づけるがごとく、西洋医学を十分に消化したうえで、独自の日本医学の建設を呼び掛けている。その文章は、ルイ・パストールのことばで締め括られ、「かくて汝は、人類の進歩と反映のために尽くしたることを思いうる無限の幸福を感じずるまで励めよ」とある。何の気なしに読み始めたが、学祖の志の高さとその先見の明に大変な衝撃を受けた。現代社会では、医師とて過度な経済的豊かさや娯楽に走りがちであるが、努力と奉仕を基本とする職業であることを再認識させられた。

次いで、脳神経外科の私の目に入ったのは、眼科学教室の先生が投稿された原著である「脳動脈撮影後に発生した卒中症の1例」であった。内頸動脈の圧迫によって両鼻側半盲をきたした症例であり、現在でも症例報告となりうる

秀逸の内容である。この論文は、今から58年前の本学先輩の学術的臨床的迫力を直接伝えてきた。脳神経外科学講座が開講される27年も前に、既に眼科学教室の先生が脳血管撮影を施行しており、さらに造影剤を含めた詳細な脳血管撮影に関する考察をされていたのには驚嘆した。今ほど検査機器が十分に完備されていない臨床現場の中で、大変なご苦勞をされて生まれた論文であることも容易に想像できた。東邦医学会雑誌は、第1巻第1号から現在まで変遷しながらも歴史を積み重ねている。本誌がずっと先の後輩達との学術的つながりを担ってくれることを期待する。

(周郷延雄)

東邦医学会雑誌 第59巻 第1号

平成24年1月1日発行

編集兼 並 木 温
発行人〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号
東邦大学医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10

株式会社 杏林舎